

ロータリーは何故必要か



京都RC会員
絹川清

私はある土地でロータリークラブの必要性を説きましたところ、ここには経済クラブがあるからいらぬではないかとのお話でありましたが

それでは世界の38万餘人の人々、日本では5,500の方々とお友達になれることを希望されぬのですかと申しましたところ、直ぐにクラブが誕生したところがあります。

ある人がスイスを旅行して、どうした機か他の人は皆バスで観光に出てしまつた。一人遅れてどうしようかと動物園へ行き熊を見ていたら、丁度スイスの人と話すことになり、お友達になつて宅へ呼ばれて御馳走になり仲よしくなつて時計工場を見せて貰つたりして、バスに遅れた爲に却つてよいお友達ができ、他の人は當り前のことを見るだけであつたのに、私は幸福であつたとの話がありますが、皆さんもロータリーができて、御自分の人生を楽しんで頂きたいと思ひます。

武生に早くロータリーができたことは、皆さんの御幸福であります。今までにロータリーのできた土地で、お蔭でひどい目に會つたという話は聞いたことがありません。

ロータリーは何故出席のことをやかましくいかうかという、普通にクラブというのは設備があり金さえ拂つておればよいのです。ところがロータリーでは設備をいふのではなく、この會合そのものをロータリーとして、それを生命として居るのであります。會館というものがないに、決つた日の決つた時間に決つた場所に集まることによつてロータリーがあり、出席そのものがロータリーであるのであります。是非とも出席せねばならないクラブだということをよく認識してほしいと思ひます。

又やかましく100パーセント出席を奨励しているのは、その條件を考えてほしいと思ひます。病氣をしたら出席できません。第一健康であるということ。

商賣繁盛だということも條件の一つ。仕事が行つておらねば出席の餘裕がありません。家庭の中に心配事があれば例會に出られません。それで100パーセント出席せよというのは、病氣するな、仕事にせい出せ、家庭圓滿にせよということでありませぬ。この三つ揃つた生活は幸福な生活であります。この幸福な生活を楽しめというのが100パーセント出席せよということでありませぬ。

World Fellowship Week



◁大會を終へ神戸、高松をへて別府へお着き

▽埠頭で記念寫眞を



この誇りをいつまでも持つて頂きたいと思ひます。

皆さんは非常にお忙しいので、日程を計畫的にして、時間を活用しておられることと思ひますが、今週、來週、再來週と見通して日程を組んで下さい。

日本中には140のクラブがあり、メーキアップができます。私は戦前6年間100パーセントで、戦後再編成してから4年續けております。京都クラブでは續々5年生が生れております。私は1年落第したので4年生です。今まで85—86%で優勝できましたが、今では90%が平均であります。皆さんもどうぞしつかり頑張つて下さい。

(武生RC會報より)